

目 次

序	曾根 康雄	
はじめに—本研究報告書の概要—	古庄 修	
【第Ⅰ部】公会計改革の研究課題と多面的アプローチ		
第1章「公的セクターの財務報告の枠組みとアニュアルレポートの 変容」	古庄 修	1
第2章「公的セクターの財務報告の範囲をめぐる議論の形成過程」	古庄 修	12
第3章「政府における連結会計の特徴 —諸外国の基準と連結の範囲に注目して—」	金子 良太	21
第4章「アウトカム業績情報を利用するための制度的枠組み —米国連邦政府の業績測定フレームワーク—」	藤野 雅史	31
第5章「新地方公会計に係わる内部統制の整備状況 —新地方公会計の実態調査の結果に基づいて—」	石川 恵子	42
【第Ⅱ部】公会計基準と企業会計基準の交錯の意義—公会計基準の新たな展開の方向—		
序 「本研究に対する問題意識と研究成果の位置づけ」	今福 愛志	55
第6章「社会給付の債務認識をめぐる公会計フレームワークの国際的動向 —国際公会計基準審議会（IPSASB）諮問書「社会給付の認識と 測定」（2015）をめぐって—」	今福 愛志	58
第7章「ソブリン・ウェルス・ファンドに関するベストプラクティスの 形成と隘路」	今福 愛志	69
第8章「公的年金基金の運用機構における IFRS の導入の意義 —カナダ年金制度投資理事会（CPPIB）の運営コストをめぐる 開示問題—」	今福 愛志	86